Dudzinski, K. M., Gregg, J., Melillo, K., Seay, B., Levengood, A., and Kuczaj, S. A. 2012.

Tactile Contact Exchanges Between Dolphins: Self-rubbing versus Inter-individual Contact in Three Species from Three Geographies.

International Journal of Comparative Psychology 25: 21-43.

日本語タイトル

イルカ同士の触覚的接触のやり取り：3つの地域に生息する3つの種におけるセルフラビングと個体間の接触の比較

要旨日本語訳

セルフラビングと社会的ラビング（イルカのペアの間での胸ビレの接触）を 3 つのイルカ研究グループが行なった観察（バハマの野生イルカ、日本の御蔵島の野生イルカ、ホンジュラスのロアタン島にあるロアタン海洋科学研究所の飼育下イルカ）により比較した。この調査の主要な目的はセルフラビングと胸ビレを使った社会的ラビングの機能が重なっているのかを決定することであった。セルフラビングを行う率は 3 つの研究の間でほとんど等しく、場所特異的な違い（例えば、環境の状況、底質、岩やサンゴの存在、社会的グループ）はイルカ以外の物体で体をこする率に影響を与えていない。セルフラビングの機能は完全に明らかになっていないが、要因の組み合わせ（例えば、遊びや快楽）が関係している可能性が高く、もしかすると衛生などの機能がセルフラビングと社会的ラビングの両方によって共有されているのかもしれない。概してラビング行動（例えば率や使われている体の部位）は全ての 3 つの場所、3 つの種で同じであり、ラビングはイルカという種にとって進化的に保存されてきた行動であるということを示唆している。それにもかかわらず、どれくらいの頻度で、誰と胸ビレの接触を行い合うのか、あるいはセルフラビングを行うのかという点に関しては、我々の研究グループの中では明らかに少しずつ個体ごとに異なっていることが記載されている。個々の個性だけでなく、場所特異的な社会的圧力や捕食圧も個々の観察されたラビング行動の発現という点で役割を果たしているかもしれない。

訳者: 中筋あかね　翻訳日: 2012 年 4 月 26 日

※日本語要旨は第一著者の承諾の元に作成しました。訳者が第一著者でない場合、訳文の品質には責任を負いかねます。正確な情報をご入り用の場合は、原文をご覧ください。